

防災フォーラムin海南

巨大災害

命を守る情報をどう伝えるか

南海トラフ巨大地震により甚大な被害が出ると予想される和歌山県において、被害を減少させ早期に復旧させるためには、被災地への情報伝達手段の確保が欠かせません。東日本大震災をはじめ近年の大規模災害で、ラジオ放送がその有用性を指摘されました。臨時災害 FM 局は、発災時に速やかに被災地へ命を守る情報を提供することが可能になります。

このラジオ放送や臨時災害 FM 局の必要性などについて周知し、県民の関心を高め意識向上を図ることを目的として開催します。

日時 2018年2月10日(土) 14:00～17:00 (13:30開場)
会場 海南市役所 3階 会議室
定員 80名(先着順)

参加
無料

基調講演

『災害FMの可能性と課題～東日本大震災調査より』

講師：村上 圭子氏
(NHK放送文化研究所 主任研究員)

『熊本地震でラジオはこう発信した』

講師：村上 隆二氏
(プラスワン代表、DJ・ラジオディレクター)

パネルディスカッション

司会 伊藤 宏氏
(和歌山信愛女子短期大学 教授)

パネリスト 神出 政巳氏
(海南市長)
高宮 正純氏
(近畿総合通信局放送部放送課 課長)
村上 圭子氏
村上 隆二氏

臨時災害 FM 局実験放送実施!

フォーラムに先立ち、市役所内の仮設スタジオから臨時災害 FM 局の実験放送を行います。

▽放送時間 10:00～12:00

▽放送エリア 海南市とその周辺

▽周波数 79.5メガヘルツ

放送エリアの住民の方に聴いていただき、電波がどこまで届くか測定するなど、実際の災害時を想定した放送局開設運営訓練です。

ご協力をお願いいたします。

主催 和歌山県情報化推進協議会 (WIDA)
共催 海南市
後援 総務省近畿総合通信局 (予定)

講師のご紹介

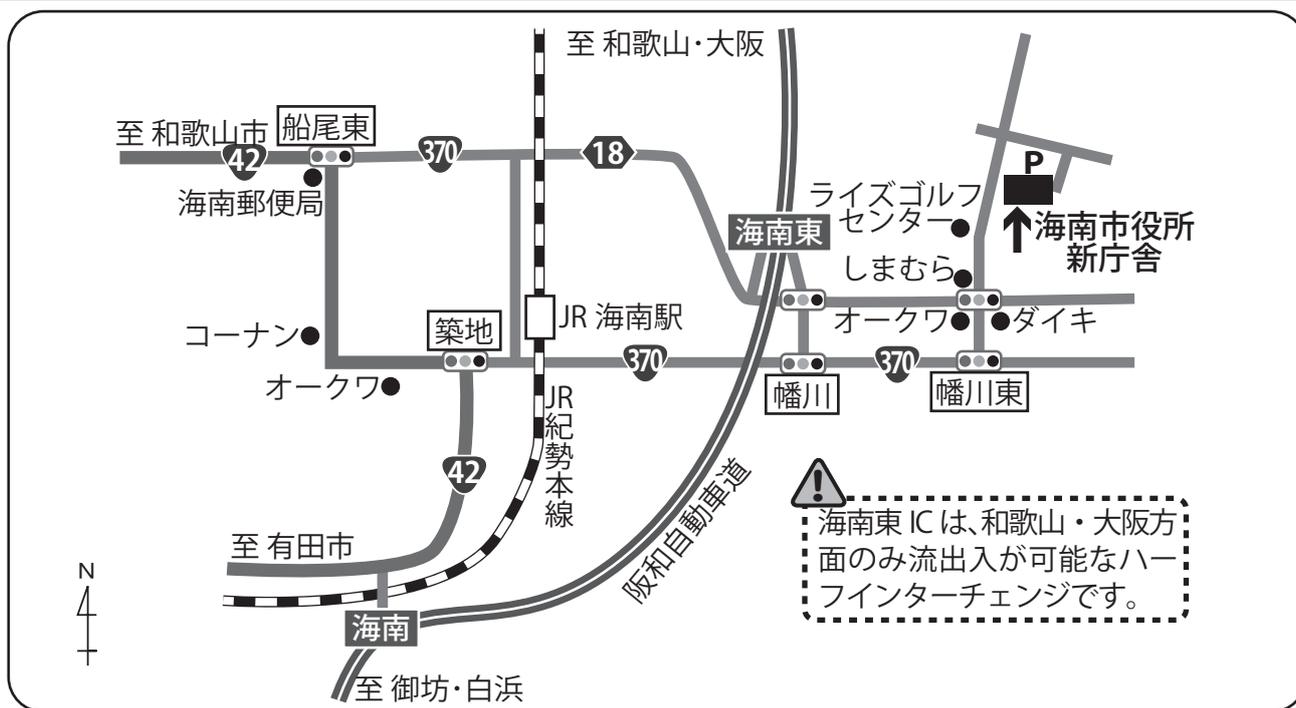
村上 圭子氏

1992年NHK入局。報道局でディレクターとして『NHKスペシャル』『クローズアップ現代』等を担当、ラジオセンターを経て現職。放送通信融合時代のテレビ・放送の今後のありかた、災害情報から見る新たな情報環境と社会（ビッグデータ・臨時災害放送局・V-Lowマルチメディア放送等）、政策意思決定プロセスにおける新たな討議空間とメディアなどについて取材・研究を進めている。

村上 隆二氏

ラジオDJ、ディレクター、防災士
1996年NBCラジオ佐賀を退職後、個人事務所「プラスワン」を設立。現在はRKKラジオ、FMKエフエム熊本、FM791熊本シティエフエム、FMしまばら、FMたんと、NHKラジオ第一でレギュラー番組を持つ。また、コミュニティFMの開局支援や再生業務も行う。
2006年に防災士取得。九州の放送関係者では最初。

会場へのアクセス



参加申込書

お申込み方法

下欄に必要事項をご記入のうえFAXでお申込みいただくか、下欄の内容を明記のうえ、E-mailでお申込みください。

締め切り

2018年2月9日（金）午前12：00まで

お申込み先

FAX : 073 - 428 - 2688 E-mail : info@wida.jp

定員（80名）になり次第、締め切らせていただきます。

ふりがな お名前	企業・団体名 (個人の方はお住まいの市町村名)	電話番号